



全国の支援者の方々に、生徒たちの取り組みを届けられる配信環境を構築

環境音・雑音がある中で、発表者の明瞭な音声を届けたい

AmpliWaveGoで会場・オンラインどちらの参加者にもクリアで臨場感のある音声を提供

ポスター・セッションをオンライン配信でも見やすい形で配信したい

リモートカメラ2台とプリセット機能を活用し、発表用のポスターを瞬時に撮影できる仕組みを構築

カメラを意識せず、いつも通りの発表を行いたい

リモートカメラの遠隔操作で、カメラを意識せずにいつも通りの発表が可能に



石川県立輪島高等学校

輪島高等学校は、大正12年(1923年)に能登北部初の県立中学校として創立された輪島中学校と、大正15年(1926年)に設立された輪島町立高等女学校を前身に持つ。昭和23年(1948年)の学制改革で両校が統合され、石川県立輪島高等学校が誕生。

昭和45年(1970年)に商業科などが分離し輪島実業高等学校として独立したため普通科単独校となったが、平成20年(2008年)に再統合。現在は普通科ビジネスコースで「社会で即戦力となる人材の育成」という伝統を引き継いでいる。

◆ 配信環境の構築に使用したAVer製品 ◆



輪島活性化に取り組む生徒たちの姿を全国に届けるため、オンライン配信に挑戦

輪島高等学校では、生徒たちがフィールドワークの成果発表を行う「探求学習発表会」を、中間発表と最終発表という形で年2回開催している。

近年の探求発表会は、街の活性化に特化した「輪島活性化プロジェクト」というテーマで研究に取り組んできたが、2024年に発生した能登半島地震を契機として、生徒たちが調査を通じて得た気づきやアイデアを「提言」するだけで終わらせるのではなく、街の活性化に直接的に反映させていくために、より実践的な取り組みが活発におこなわれている。

輪島高等学校のこうした取り組みの成果を、これまで支援してくれた全国の企業の方々や各地の高校生に見てもらいたいという思いから、2025年11月の「探求学習発表会」ではAVerからの製品貸与や配信環境の構築支援などのサポートを受け、ICT機器を本格的に活用したオンライン配信を試みるようになった。

満足度の高いオンライン配信を実現する、製品選定のポイント



ステージ発表や生徒のポスターセッションを「観やすい」形で配信する

カメラスイッチャー「MT300」を活用することで、リモートカメラ「TR211」と「TR335」のカメラ映像を、必要に応じて瞬時に切替。また、カメラコントローラー「CL01」を使うことでスムーズなカメラ操作が可能。



見せたいエリアや箇所をすぐに撮影できるようにする

リモートカメラ「TR211」「TR335」のズーム機能やプリセット機能を使用することで、見せたいエリアや箇所をすぐに撮影可能。



発表を行う生徒たちの音声をしっかりと届ける

マイク・スピーカー「AmpliWaveGo」で、現場の音声の拡声・集音を行い、現場とオンラインの参加者に発表者のクリアな音声を届けることが可能。

AVer製品の活用で、オンライン配信の懸念点を解消！

AmpliWaveGoで
クリアな音声を届ける
ことが可能に



発表会は環境音や雑音がある中で行われるため、発表の音声に雑音が入らないように集音する必要があった。

AmpliWaveGoは話者の音声を検出し、話者の音声は常に明瞭に聞こえるよう自動調整する「音声優先技術」が搭載されているため、会場とオンラインの参加者に発表者のクリアな音声を届けることが可能となった。

リモートカメラのプリ
セット機能を活用。
オンラインでも見やす
い映像を配信



ポスターセッションでは、発表用ポスターを体育館のフロアに円形に配置し、2台のリモートカメラのプリセットを各ポスター位置に事前設定することで、プリセットを呼び出すだけで瞬時にカメラを目的のポスターに合わせ、最適な画角で撮影できる仕組みを実現。

カメラを意識せずに
いつもの発表が
できる配信環境を実現



輪島高等学校における探求学習発表会のオンライン配信は初の試みであったが、カメラマンを多数配置して撮影するのではなく、体育館フロア中央に設置したリモートカメラ2台を遠隔操作およびプリセット機能を活用して撮影を行った。これにより、発表する生徒たちはカメラを意識することなく、従来の発表会と変わらない感覚で発表できる環境を整えることができた。



石川県立輪島高等学校
平野 敏 校長



石川県立輪島高等学校
寺田 知絵 教諭

前向きに取り組む被災地の子どもたちの姿を、支援してくれた全国の方々に届けたかった

輪島高校では生徒たちがさまざまなフィールドワークを行い、その成果を発表する「探求学習発表会」というイベントを年2回行っています。近年では発表のテーマが街の活性化に特化したものになっており、2024年に発生した能登半島地震を契機として、生徒たちが調査を通じて得た気づきやアイデアを「提言して終わり」ではなく、もっと直接的に街の活性化に反映できるのではないかと考えるから、探求学習発表会の活動がより実践的なものになってきています。

探求学習発表会はこれまで対面発表のみで行ってきたのですが、被災地の子どもたちが街の活性化に向けて前向きに取り組んでいる姿を、活動を支援してくれた全国の方々に届けたいと考えていたことから、2025年11月の発表会で初めてオンライン配信を行うことになりました。

クリアな音声と見やすい映像によって、予想以上のオンライン配信が実現できた

発表会のオンライン配信は初めての試みで不安な点多かったのですが、AVerの営業の方に相談しながらイメージや要望を拾い上げていただき、最適な製品の提案をしてもらえたのでとても助かりました。

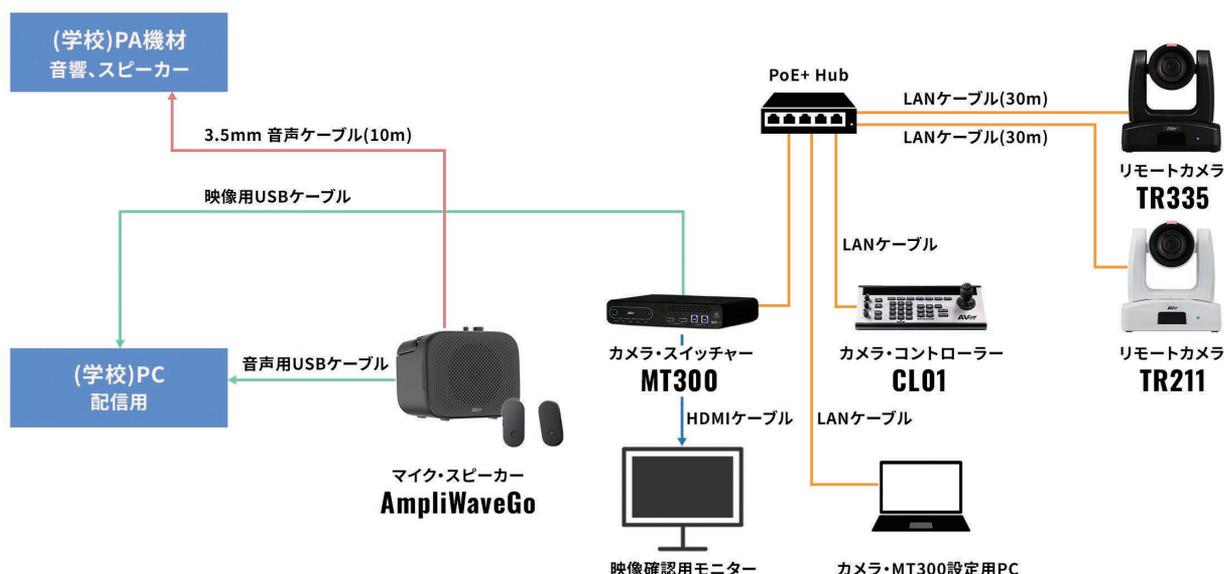
会場が体育館だったため、環境音や雑音がマイクに入り、オンライン参加者に届く音声が不明瞭になってしまうのではないかと心配していました。しかし、マイク・スピーカーのAmpliWaveGoを使用したことで、非常にクリアな音声を参加者に届けることができ、音質に関する不安を解消できました。

映像については、ただ会場を俯瞰で撮影するのではなく、オンラインで見ている方にも見やすい映像をめざしました。特にポスター・セッションでは、生徒が多数のポスターを使って発表するため、どうすれば見やすく伝える映像を届けられるかをAVerの皆さんと一緒に考えました。

そんな時、AVerの方から「ポスターを円形に配置すれば、2台のカメラで全てを撮影できる」という素晴らしいアイデアをいただき、その通りに実施した結果、オンライン配信でも非常に見やすい形で配信することができました。

本番当日は大きなトラブルもなく、非常にスムーズに進行できました。配信のクオリティも予想を大きく上回る良いものになり、大変満足しています。当日の参加者は生徒の保護者が中心でしたが、その他にも探求学習にご協力いただいた全国の企業の方々や大学関係者、OECD(経済協力開発機構)の方など、多くの方々にご覧いただき、私たちとしても大変充実したオンライン配信になったと感じています。

石川県立輪島高等学校 探求学習発表会 - 機器構成

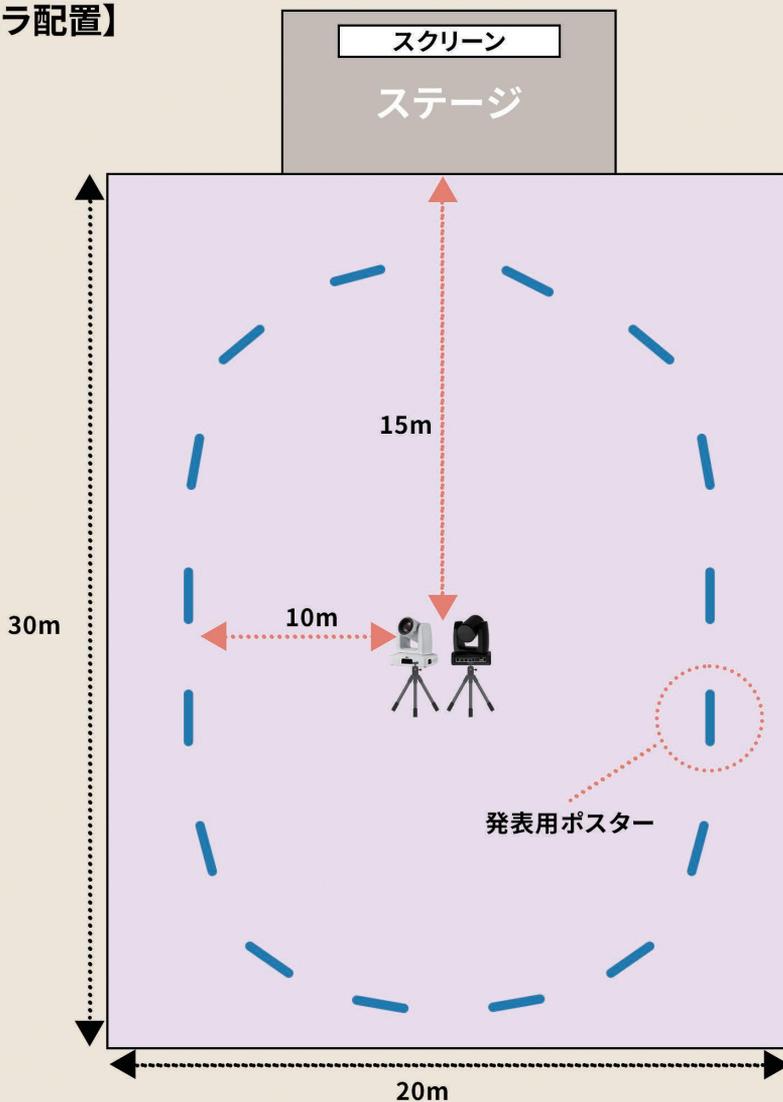




探求学習発表会 ステージ発表

探求学習発表会 ポスター・セッション

【カメラ配置】



使用カメラ



探求学習発表会は以下2種類のプログラム構成で行われた。

- ①ステージ発表
- ②ポスター・セッション

体育館のフロア中央にリモートカメラ2台を設置し、ステージ発表時は、1台のカメラでステージ全体を「俯瞰」で撮影、もう1台は「スクリーン」を中心に撮影を行った。

フロアに並べられたポスターを使用して生徒が発表を行うポスター・セッションでは、2台のリモートカメラそれぞれに各発表用ポスターの設置位置をプリセット登録し、プリセットを呼び出すことで、体育館のフロアに円形に配置された各ポスターを瞬時に撮影できるようにした。

アバー・インフォメーション株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-26 立花新宿ビル7F

TEL:03-5989-0290(代表) FAX:03-5989-0291 Mail:ppdinfo.jp@aver.com

jp.aver.com

アバー

検索

